議長定例記者会見の概要

日　時：令和７年３月 19 日（水）
　　午後 12 時 10 分～12 時 30 分
場　所：議長応接室

２月定例会を終えての議長の所感

（濵砂議長）

本日は大変お忙しい中にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

本年度最後となる２月定例会も本日をもって 28 日間でありましたが、会期を無事に終了いたしました。

今定例会では、「みやざきの“真価”実感予算」として編成されました令和７年度一般会計予算や令和６年度一般会計補正予算（第９号）、追加で提出された「副知事の選任の同意」など、合計 108 件の知事提出議案をすべて認めたところであります。

２月 27 日から３月４日の５日間、自民、公明、立憲の各会派が代表質問を行い、一般質問では 11 名の議員が質問に立っております。日本一挑戦プロジェクトや、知事の政治姿勢、物価高騰対策や地方創生を始め、県政全般にわたる質問が行われたところであります。

また今定例会では、地域活性化対策、防災減災・県土強靭化対策、カーボンニュートラル推進対策の三つの特別委員会により、１年間の調査報告が行われました。有意義な提言がなされたので、県当局には、これらの提言を十分に踏まえていただいて、施策を推進していただくことを期待しております。

本年度を振り返りますと、８月の日向灘を震源とする最大震度６弱の地震発生や台風による竜巻などにより、各地で大きな被害が生じました。

一方で、今年度から、宮崎国スポ・障スポ局が新設されました。来月には陸上競技場やプールが供用開始となるなど、２年後の開催に向け、機運の高まりを感じているところであります。

さらに、国際定期便「台北線」の再開や、都城志布志道路が今週末には全線開通するなど、本県経済の活性化につながる基盤整備も進んでおります。

議会といたしましては、県民の命と暮らしを守るため、本会議や委員会審議等を通した提

言、国への意見書提出、要望活動などに鋭意取り組んでまいりました。
　今後とも、県民目線に立ちながら、議会に求められる役割をしっかりと果たしてまいりたいと考えております。
　私からは以上であります。

質疑応答

【朝日新聞】
　今年度を振り返って、例えば予算等の議案の審議など、印象的だったことをお伺いします。

（濵砂議長）
　特に印象に残っているのは昨年８月８日の日向灘の地震です。初めて南海トラフ地震臨時情報が発表され、実際に南海トラフ地震が発生したらもっと大きな被害になりますので、私自身も含め、県民の皆様の防災・減災対策の意識の醸成に繋がったのではないかと思います。
　それから、県立病院の経営について、昨年度に 50 億円の貸付を行うことになり、これは物価高騰や人件費等のことが重なってのことと認識をしておりますが、今年度も非常に繰出金が多くなっています。病院経営が今の状態のままで進められていくのか心配なところもありますが、県立病院としては、県民が必要とする医療体制をつくりあげていかなければならないという使命がありますので、採算が取れない部門でも運営をしていかなければならない。特に県立日南病院の問題があるのですが、各医療圏域がある中で、宮崎県の医療というものを総体的に見直す必要があるのではないかと感じています。

（野﨑副議長）
　議長からも話があったように災害がありました。突風や竜巻被害などでは、家屋が大きな被害を受け、未だにブルーシートを被っているところもあります。物資があっても人手が足りず、災害があっても復旧できない現状がまだあり、そこが問題かなと思います。もちろん、引き続き、国に対しまして国土強靱化予算の充実を要求していきたいですが、例えば、雨が降っても川の水位が上がらなかったりすることは、この国土強靱化事業によって堆積土砂の除去が進められたことなどの成果ではないかと思います。
　そして、予算については、知事が日本一挑戦プロジェクトを掲げており、来年度予算について注視しておりましたが、目標を具体化するような予算編成になっているのではないかと思います。特に子育て施策などが充実しているのではないかと評価しているところですが、これらの施策の成果をまた来年度には同様に振り返って評価することになりますので、引き続き注視していきたいです。
　県立病院に関しては、特に日南病院を見ると、改善策等を継続しておりますが、なかなか厳しい経営状況となっています。一つ考えられるのは、患者数が減ったことや、交通インフラが整ったことで他の地域で受診する患者がおられることもあるのではないかと思います。採算が取れなくても、地域医療を守る受け皿としての公立病院という大前提はあるのですが、このように赤字が続くとやはり財政を圧迫しますので、例えば、民間も含めて地域の医療機関が合併などで共存共栄できるような医療体制についてもしっかりと協議をしながら形にしていかなければならないと思います。

【共同通信】
　今月は都道府県版ジェンダー・ギャップ指数が公表されました。宮崎県は政治分野において指数 0.147 の全国 45 位ということで、女性の政治参加がなかなか進んでいない状況が明らか

になったと思うのですが、このことについてのお考えを伺います。

（濵砂議長）
　人材登用については非常に難しいところです。例えば、宮崎県議会には女性の議員が４名いますが、チャンスはそれぞれの方に与えられている中で、議員になろうとする女性の方がどれだけいらっしゃるのか、ちょっと分からないところがあります。２年前の県議会議員選挙や各市町村議会選挙でも女性の立候補者は男性と比べて少ないので、政治に目を向ける女性が少ないのではないかと思います。社会全体の中で、あるいは組織の中で判断していく問題でもありますが、女性の方にはどの分野においても挑戦をしていただきたいと思っています。本県が 45 位ということは、もっと順位を上げていきたいとは思いますし、男性議員、女性議員ともに頑張っていきたいです。

（野﨑副議長）
　これまでの長い歴史の中での流れであったり、社会や世の中の流れがある中での、こういったジェンダーの問題だと思いますが、チャンスは平等に与えられていますので、女性の方にも大いに挑戦していただきたいですし、議会としても平等に取り扱うべきものであると考えています。

【読売新聞】
　今回、副知事と教育長の人事案が承認されましたが、宮崎県では副知事の再任は珍しいのではないかと思います。この日隈副知事の再任についてどのように受け止められているのかお伺いします。

（濵砂議長）
　日隈副知事は、議会事務局長や教育長も経験されて副知事になられた方ですので、全体的なところを網羅されており、そういった意味では適任ではないかと思います。そのようなところが評価されて知事からも副知事の再任が提案されたのではないかと思います。

（野﨑副議長）
　日隈副知事については、県職員との関係や我々議会との関係、民間との関係と、非常に幅広いところでバランスの取れた方であると思っているところです。
　県も日本一挑戦プロジェクトを掲げ、これから成果を上げていかなければなりませんし、国民スポーツ大会をはじめとして様々な事業がある中で、引き続き、知事を支えてもらいたいということで再任されたのではないかと思います。